

島根県精神当事者連絡会

障がい者は危険か

Tさん

年間四万五千件の暴力事件が我が国で発生しているという。その中で約三パーセントの精神病患者による暴力事件が発生するという。この三パーセントの数を見て精神病患者が危険だというのはどうだろうか。又精神病患者の暴力事件は精神病患者の再発時に発症するという。精神病の再発を防げば同時に暴力事件もなくなるという。精神病患者の再発を予防することは可能であるといわれる。ではどうするか。地域で生活する精神病患者に、薬物療法、生活技能訓練、家族教室、さまざまな福祉サービス、そしてそれらをまとめるケアマネジメント、これらを与えることによって精神病の再発予防は可能だという。言いかえれば精神病患者の精神病患者の暴力事件はなくなるのである。「障がい者は危険か」などと言って精神病の再発予防をしないリーダーこそ問題だと思う。しかしながらデマをとばして他人の不幸を喜ぶ人はいつの世にもいるものだ。悲しいことである。

精神障がいとうまくつき合うために 連絡会(略) 副会長 Hさん

障がい者自立支援法が施行され、精神障がい者はますます暮らしにくくなりました。医療費をはじめ、共同作業所やまたいろいろな施設を利用するにも、原則1割負担になりました。これは当事者や家族にとってかなりの出費です。20年位前に精神衛生法から精神保健福祉法に変わり、やっと精神障がい者にも、人権が認められるようにはなりましたが、まだまだ偏見や差別があります。何か重大事件が起きると、犯人に対して精神鑑定が行なわれ、精神的に不安定だったということで、罪には問えない、ということがしばしばあります。精神障がい者の全国組織では、当事者が犯罪に手を下したら、それなりの罰をあまんじて受けようではないか、といった運動もあります。その代わりその他の犯罪についても、精神的に不安定だったからといって罪には問えないといった考え方もやめて欲しいといった、運動もおこなっています。そういったもろもろの事もありますが、全般的にみてもほとんどの精神障がい者は、気が弱くそしてもろい、そしてまじめで少し何かあるとすぐに落ち込む、といった人達です。私達は、障がいとうまく付き合っていくすべを、自分自身で考えなければなりません。それにはかなりの時が必要です。ほとんどの人がそれなりに、自分のことを理解して、積極的に治療をしなければ、と考えるまでに、10年位かかります。

障がい者に対する、差別・偏見をなくすために、シルバーリボンのキャンペーン行っています。

ぜひ、御協力をお願いいたします。

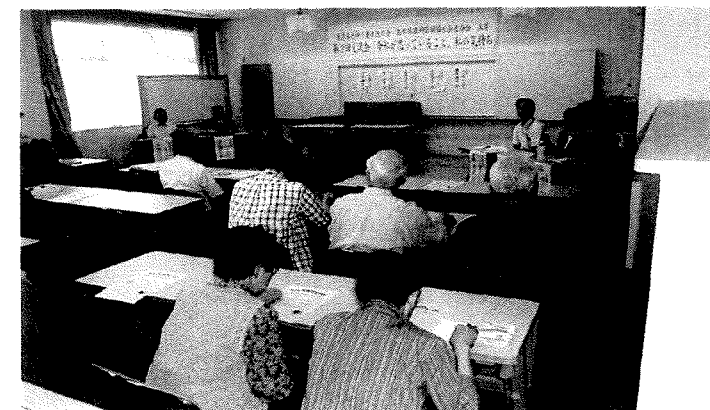
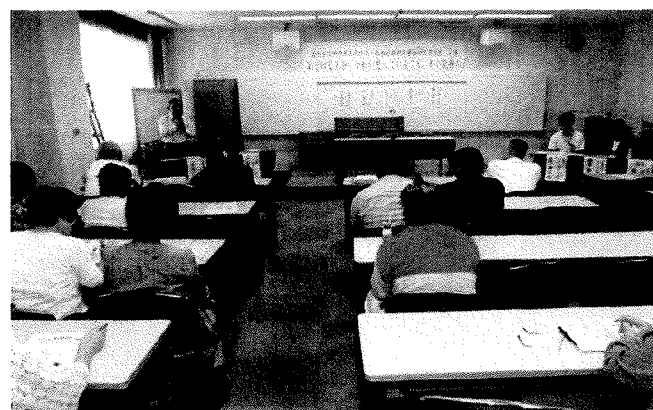
第2回交流会の様様

島根県精神保健福祉会連合会(家族会)・島根県精神当事者連絡会 共催

日時：23年9月25日(日) 13:00~15:00

場所：大田市あすてらす

大会テーマ：「今私が思っていること、私の気持ち」



第2回交流会の報告 連絡会(略) 会長 Sさん

平成25年9月25日 大田市のあすてらすで、交流会を行いました。島精連と当事者交流会を行いました。島精連と当事者連絡会の共催のイベントで今年で2回目になります。(交流会の名称を募集しています)参加者は、60名ほどでしたが、問題提起と情報交換の場になり、充分満足出来るイベントでした。

内容は、①土、日曜が、閉所となる施設が多く困っている。

②障がい者への対応のまずい地域がまだあり困っている。

この他に、家族会の運営方法で、色々情報交換が、なされました。

また、バスの半額サービスについて、益田の M さんから朗報が届きました。

参加者の皆さんありがとうございました。実行委員の皆様御苦勞様でした。

第43回 島根県精神保健福祉大会

日時：平成23年11月8日(火) 13:00~16:30

場所：ビッグハート 出雲 (出雲市駅南1丁目)

大会テーマ：「手をつなぎ、心をつないで、踏みだそう」

主催：島根県・島根県精神保健福祉協会・(社)島根県精神保健福祉会連合会

内容：式典 精神保健福祉功労者表彰(知事感謝状、協会長表彰)、活動発表

記念講演 演題：「アウトリーチ支援の可能性」-ACTでつなげる地域-

大和診療所 所長 藤田 大輔氏

障がい者就労支援事業所等の作品展示・販売コーナー

※福祉大会で、連絡会(略)のパンフレットの配布と、シルバーリボンの販売を行ないます。

●原稿を募集します。投稿され、掲載された方は、若干の御礼をしますので、お願いいたします。